

「保険特化型AIバイブコーディング」提供開始

商品・サービス開発期間を大幅短縮

InsureMO

シンガポール発の保険ミドルオフィスプラットフォームを展開するInsureMO(株)は3月、保険業界に特化したAI開発環境「AI Vibe Coding (AIバイブコーディング)」の提供を開始した。ユーザーからの指示を受けたAIエージェントが保険アプリケーションなどを自動生成する機能で、これまでより商品やサービスの開発期間を大幅に短縮できる。同社によると、国内で保険業界に特化したAIバイブコーディングの提供は初めてだという。

AIバイブコーディングは、同社が提供するプラットフォーム「InsureMO」に追加された新機能で、保険会社の商品・サービス開発を大幅に効率化する。「InsureMO」は、1万個以上の保険業務関連サービスの機能を最小単位の「部品」に分

品の申し込みが可能なアプリケーションを完成させることができる。同社による開発シミュレーションでは、数時間ほどで保険アプリケーションを開発したという。

保険業界では近年、AI活用への期待が高まる一方、実装面では多くの課題を抱えており、その一つに基幹システムとAPIの問題がある。多くの保険会社の基幹システムにはAPIが存在するものの、従来型保険システムのAPIは人間の開発者が長期間かけて統合することを前提に構築されており、AIが自律的にAPIを理解し、アプ

リケーションを構築することは困難だった。

具体的には、複雑なパラメータ設定や暗黙の業務ロジック、文書化されていない業務ルール、複数処理を一括りにしたモノリシックな構造、画面フローや画面仕様に依存した処理の仕組みなどが課題となっており、こうした構造の下では、AIは正しく動作するアプリケーションを生成できず、結果として保険業界におけるAI活用が停滞する一因となっていた。

こうした長年の課題を解消し、保険業界に変革をもたらすために、今回、「InsureMO」とAI開発技術を組み合わせ、AIバイブコーディングを開発した。

「InsureMO」上のAIエージェントが保険料試算APIを呼び出し、ユーザーとの対話形式で見積もりを作成・提供することで離脱率の改善を図る「AI保険見積もりシステム」をリリースした。

同社では、「AIエージェントとAPIプラットフォームを組み合わせた次世代の保険開発環境を提供することで、保険業界のデジタルトランスフォーメーションを加速させていければと考えている。

今後は保険会社、金融機関、デジタルプラットフォーム企業とも連携を拡大し、AIを活用した新しい保険サービスを支援していきたい」として、取り組みの進展に意欲を示している。

AIエージェントが保険アプリを自動生成

また同じ3月には、